

# 西光寺だより

第二七九号 令和七年七月一日発行

梅雨もはやくに明けてしまい、暑い夏を六月から感じるようになりました。この六月の暑さは観測史上の暑さだそうです。

そして七月であります。何回も耳にされていることと思いますが、時間を決めての水分補給、のどが渴いてからは遅いらしいので。決して無理はせず日陰や冷房を有効活用しながら過ごしたいと思います。

八月はどうなるのかと心配しますが、それは八月になってから考えましょう。

今、世間では備蓄米の話で騒がれています。

毎日食べるお米の存在の大きさに、あらためて知らされる思いであります。また、浄土真宗のお供えでもお仏飯があるように、その大切さは計り知れないものがあります。

テレビやマスコミなどで、米の価格は…、米の生産量は…、備蓄米の米は…、などの言葉が飛び交いますが、私自身違和感を思うところがあります。

それは、米（こめ）ではなくお米（おこめ）と表現してほしいというところ。テレビのアナウンサーや政治家さんの方々の、米の…、の言いが偉そうというか、なんか呼び捨てしている感じがします。僕だけかもしれません…。

言葉の使い方は相手に伝えるという大切な手段の一つなので、米、寺、墓、茶、話、手紙、金、箸、酒、水、肉、弁当、など「お」をつけていうほうが、丁寧になり、またその言葉自身に敬意や大切さを思うからこそ、「お」をつけて伝えるものだとあらためて知ることあります。

それは人ではなく、ものに対しても同じであると思います。

人に丁寧に接する人は、物にも丁寧に接するもの。

人はなくしてから気づくことが多くあります。いのちはもちろん、当たり前が特別に変わる瞬間が気づく時であります。

お米の大切さを知る一方、言葉の使い方にも気づく、そんなことを思いながら日々のお米も言葉も味わいたいものであります。

合掌

お仏飯は釈尊にお食事を捧げたことからはじまっています。

『僧祇律』に「如来一食を以ての故に身体軽くして便ち安楽住を得」とあることから、一日一食と知れます。

私たちがお仏飯を毎朝供えて、正午におさげするのは、釈尊の当時の生活様式を倣っているからであります。また、他宗とは違い浄土真宗はご飯だけをお供えするのが特徴です。

ご本山にお参りするとお仏飯の量の多いのに驚かれます。また、お盆や彼岸会には、その倍の量だそうですから驚きであります。

ところでどうしてお仏飯をお供えするのでしょう。

『百通切紙』には、

御鉢おはちを供へ奉るは、我らの命は飯食の恩なり、この飯食の恩にて、命ながらへて、目出度めでたき仏法聞くなり。然れば行者の不死の菓の飯食なれば、わが重ずる所の飯食にょらひを如来にさしあぐるなり。

と説いています。つまり、「主食であるお米を食することによって命長らえて、そのおかげで尊い仏法を聞くことができる」からだ、分かりやすく理由を説いています。

## ◆先月の報告◆

六月十八日（水）茨木東組聖跡巡拝バスツアーが行われました。今回は京都方面で親鸞聖人御入滅の地である角坊を参拝し、しようざんリゾート京都での溪涼床料理、沙羅双樹の花で有名な大本山妙心寺を巡るコースでありました。

茨木東組17カ寺から42名の寺族・ご門徒の皆さんで行って参りました。お天気にも恵まれ、皆さんでのお参りとお食事を堪能し、大切な時間を味わうことができました。

来年は茨木東組17カ寺の総代さんのみのご旅行ですが、再来年の旅行はこの聖跡巡拝バスツアーですので、どうぞ皆さんのご参加お待ちしております。

また、12月1日〜2日には茨木東組念仏奉仕団の恒例行事がございます。またご案内いたしますが、こちらもどうぞよろしくお願い申し上げます。

そしてご参加された皆さま、ありがとうございました。



## ◆七・八月の行事◆

・八月 十五日（金）

盂蘭盆会法要

午後六時〜

西光寺本堂

